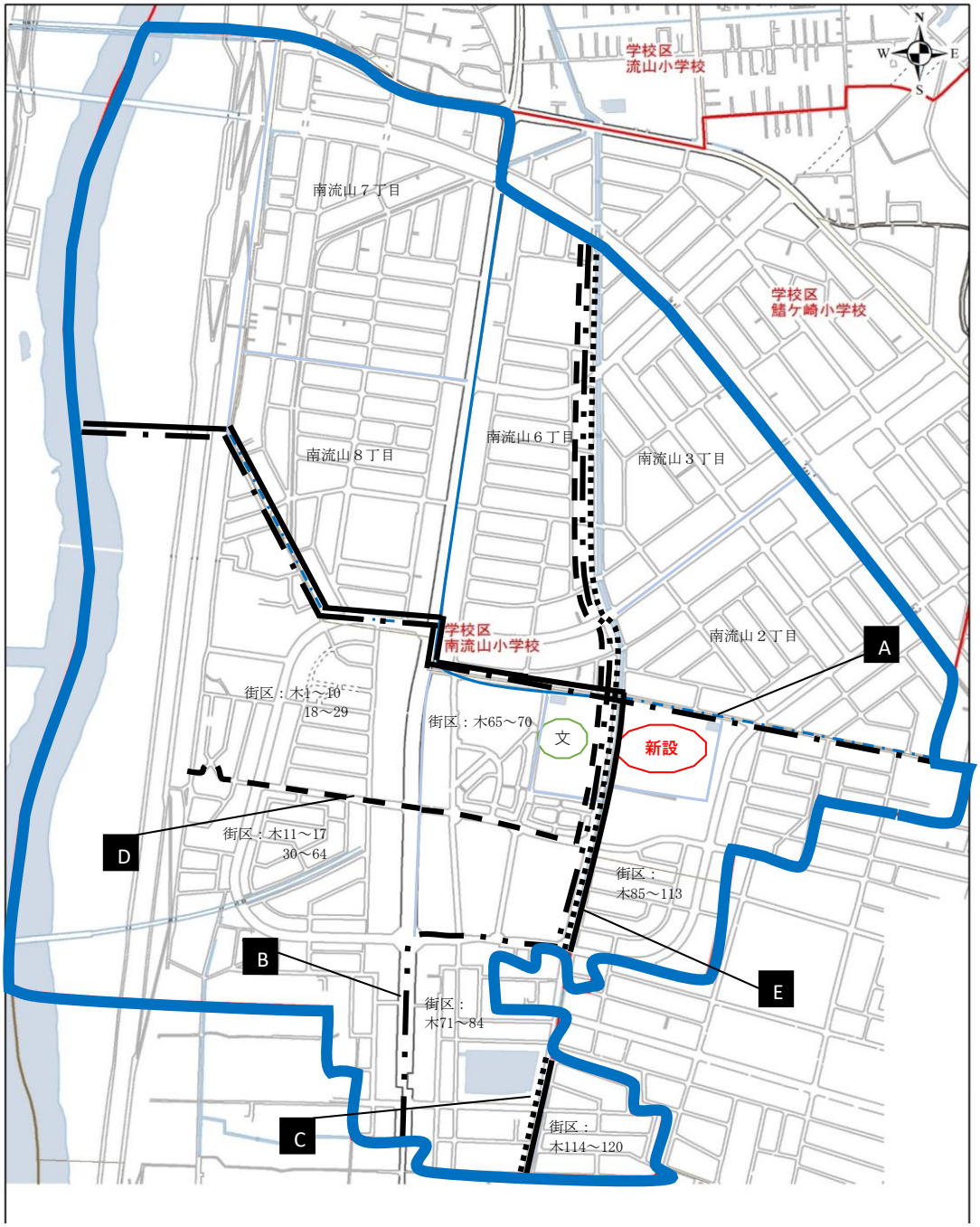
（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



＜学区境線(案)＞

A
B
C
D
E

令和3年度児童生徒数推計及び想定値から令和6・9年度の数値を使用。
※指定学校変更等の数値及び特別支援学級の児童数については、居住地区が不明のため反映していない。

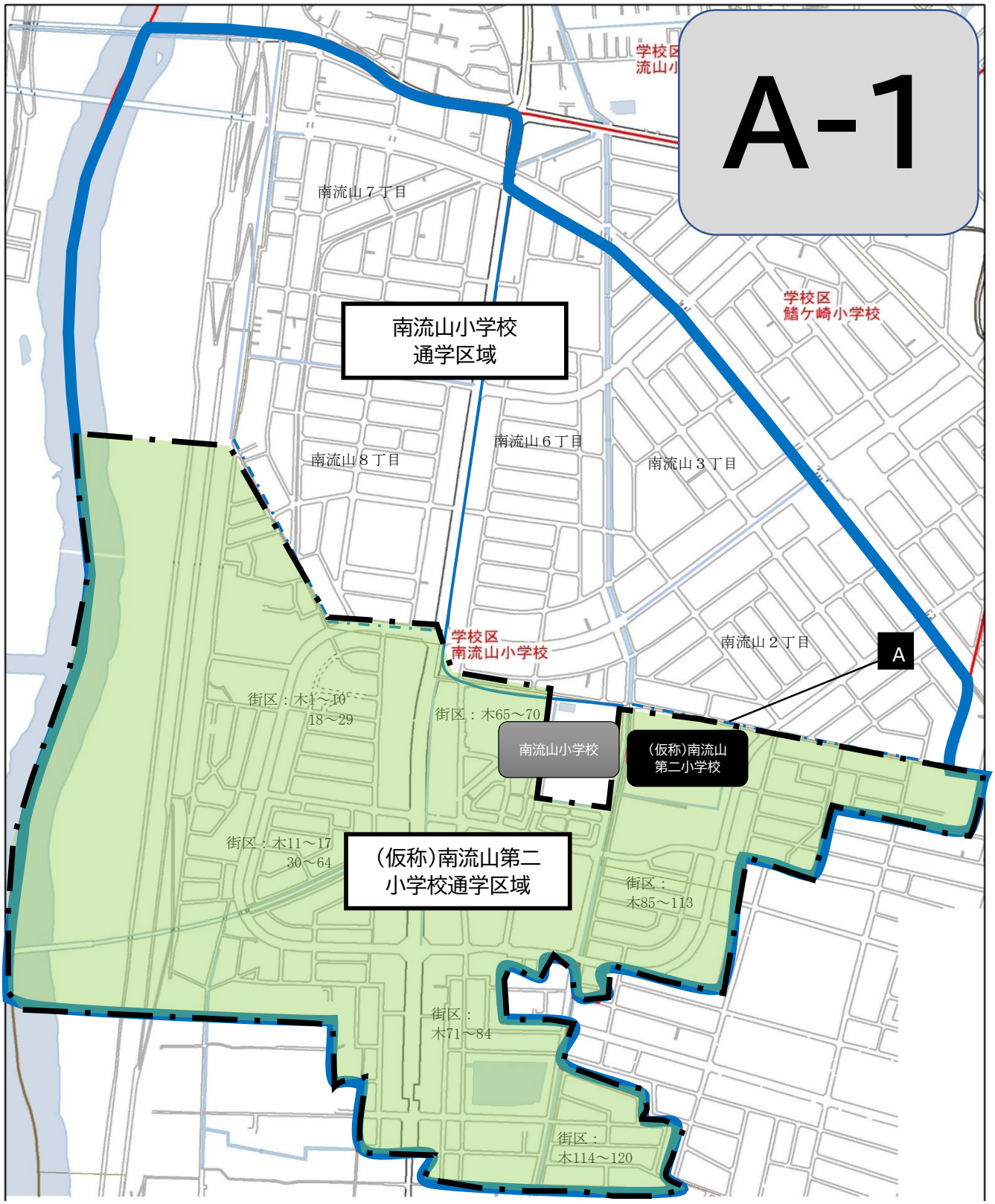
教育委員会としては案Eを通学区域境としたいと考えている。

令和6年度	A-1（新設小に木地区を入れる場合）		A-2（新設小に南流山地区を入れる場合）		B		C		D		E	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
(仮称)南流山第二小	1,173	37	641	22	524	19	432	14	679	23	853	28
南流山小	641	22	1,173	37	1,290	39	1,382	42	1,135	35	961	30
合計	1,814	59	1,814	59	1,814	58	1,814	56	1,814	58	1,814	58

令和9年度	A-1（新設小に木地区を入れる場合）		A-2（新設小に南流山地区を入れる場合）		B		C		D		E	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
(仮称)南流山第二小	1,580	49	717	24	697	23	575	19	1,000	32	1,017	32
南流山小	717	24	1,580	49	1,600	49	1,722	52	1,297	40	1,280	39
合計	2,297	73	2,297	73	2,297	72	2,297	71	2,297	72	2,297	71

（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	A-1	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	1,173	37
南流山小	641	22
合計	1,814	59

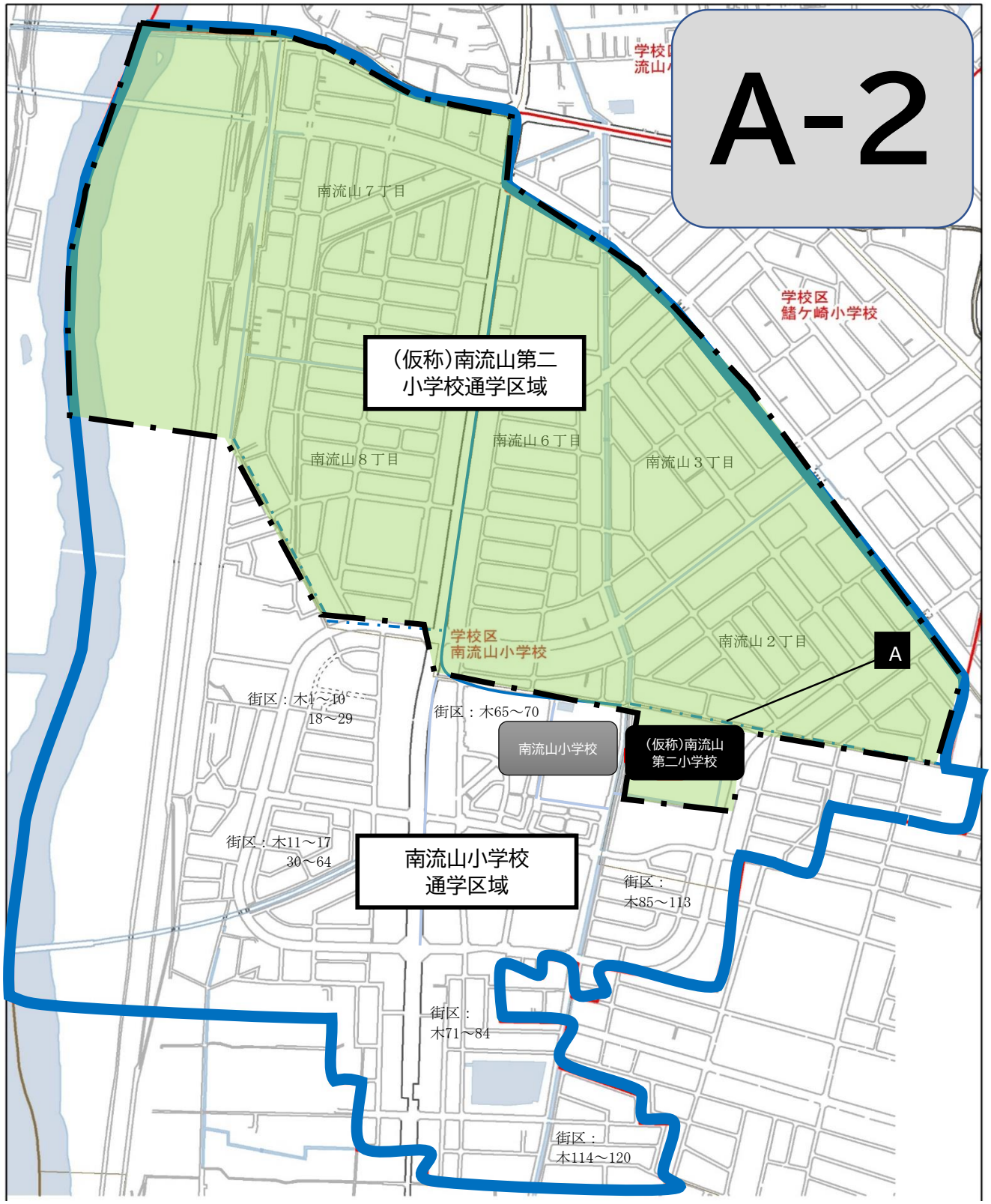
令和9年度	A-1	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	1,580	49
南流山小	717	24
合計	2,297	73

＜メリット＞
・通学区域の面積のバランスが良い。
・南流山と木で字が分かれる箇所である。

＜デメリット＞
・令和９年度には、（仮称）南流山第二小学校の学級数が４９教室まで増える。

（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	A-2	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	641	22
南流山小	1,173	37
合計	1,814	59

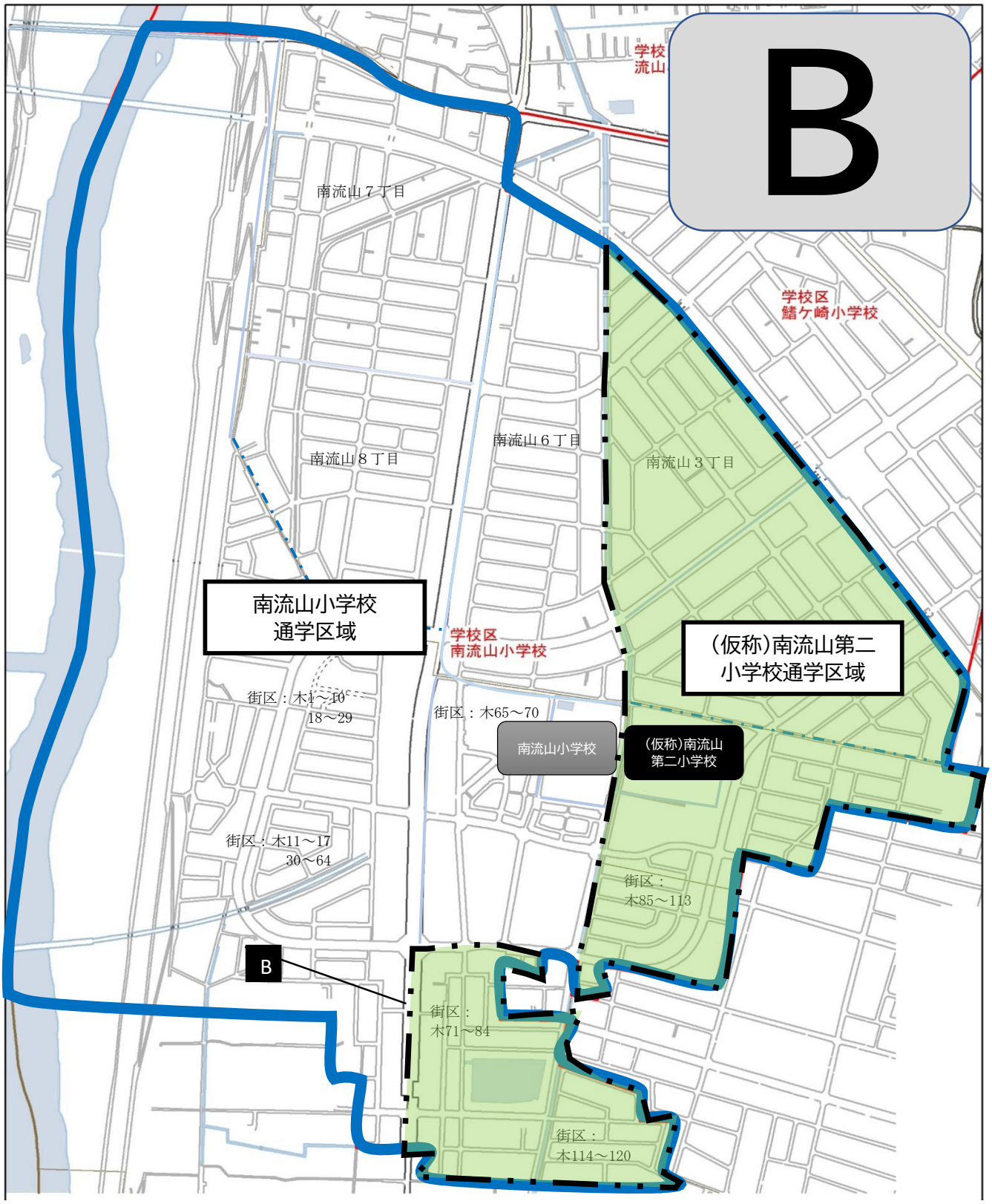
令和9年度	A-2	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	717	24
南流山小	1,580	49
合計	2,297	73

＜メリット＞
・通学区域の面積のバランスが良い。
・南流山と木で字が分かれる箇所である。

＜デメリット＞
・令和９年度には、南流山小学校の学級数が４９教室まで増える。

（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	B	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	524	19
南流山小	1,290	39
合計	1,814	58

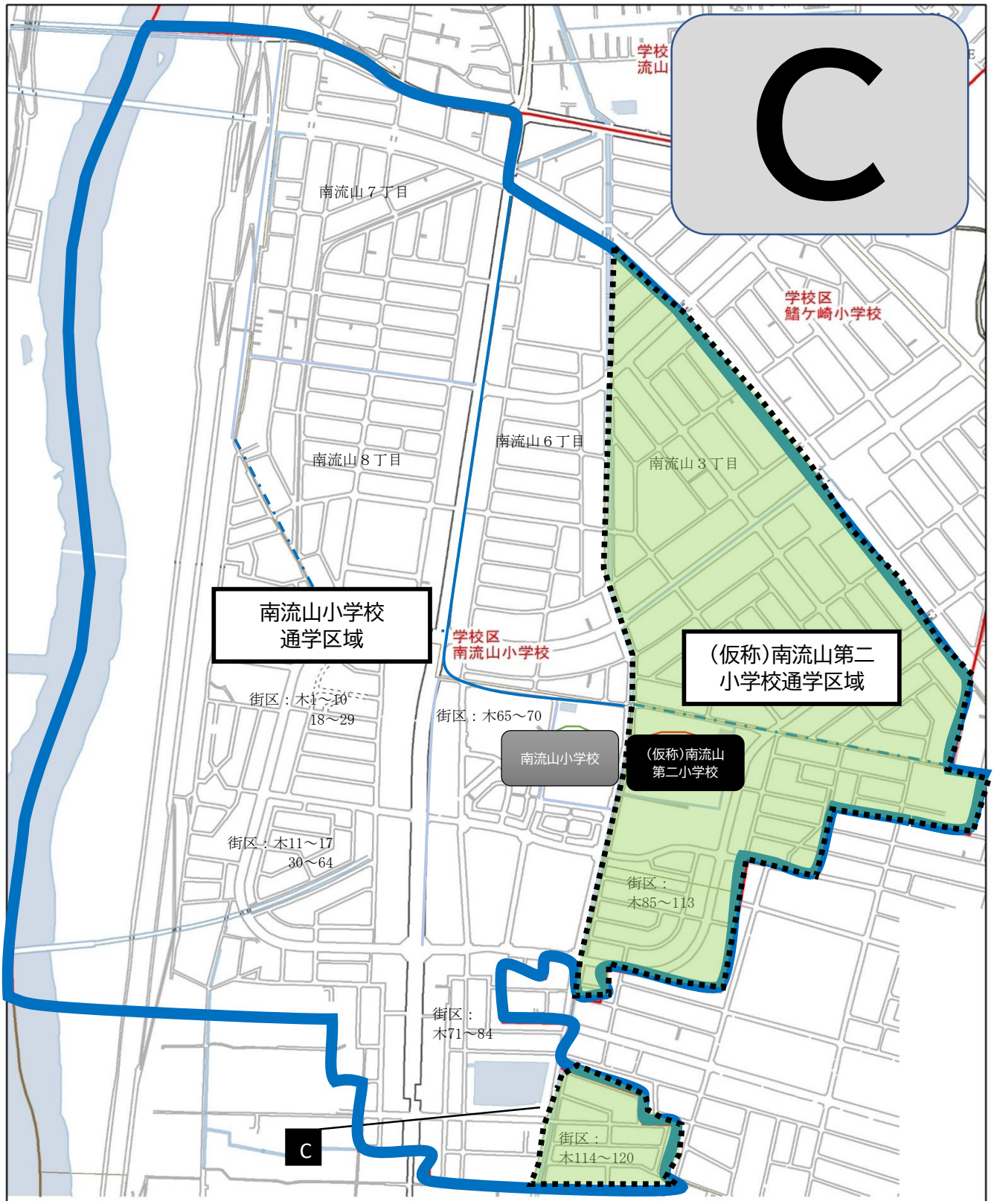
令和9年度	B	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	697	23
南流山小	1,600	49
合計	2,297	72

＜メリット＞
・学区境が比較的わかりやすい。

＜デメリット＞
・令和９年度には、南流山小学校の学級数が４９教室まで増える。
・南流山地区と木地区がそれぞれの学区に混在している。

（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	C	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	432	14
南流山小	1,382	42
合計	1,814	56

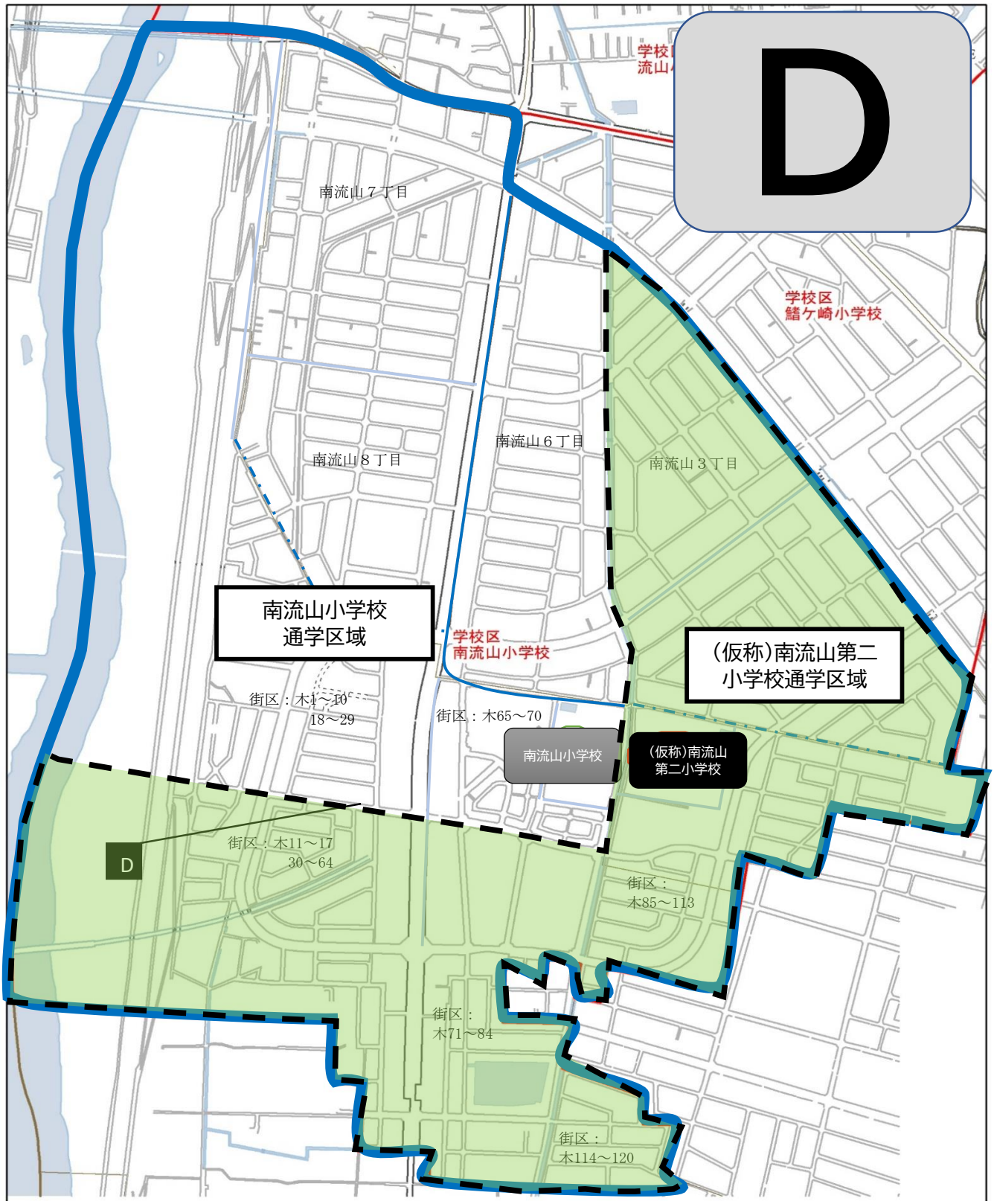
令和9年度	C	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	575	19
南流山小	1,722	52
合計	2,297	71

＜メリット＞
・学区境がわかりやすい。

＜デメリット＞
・令和９年度には、南流山小学校の学級数が５２教室まで増える。
・南流山地区と木地区がそれぞれの学区に混在している。

（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	D	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	679	23
南流山小	1,135	35
合計	1,814	58

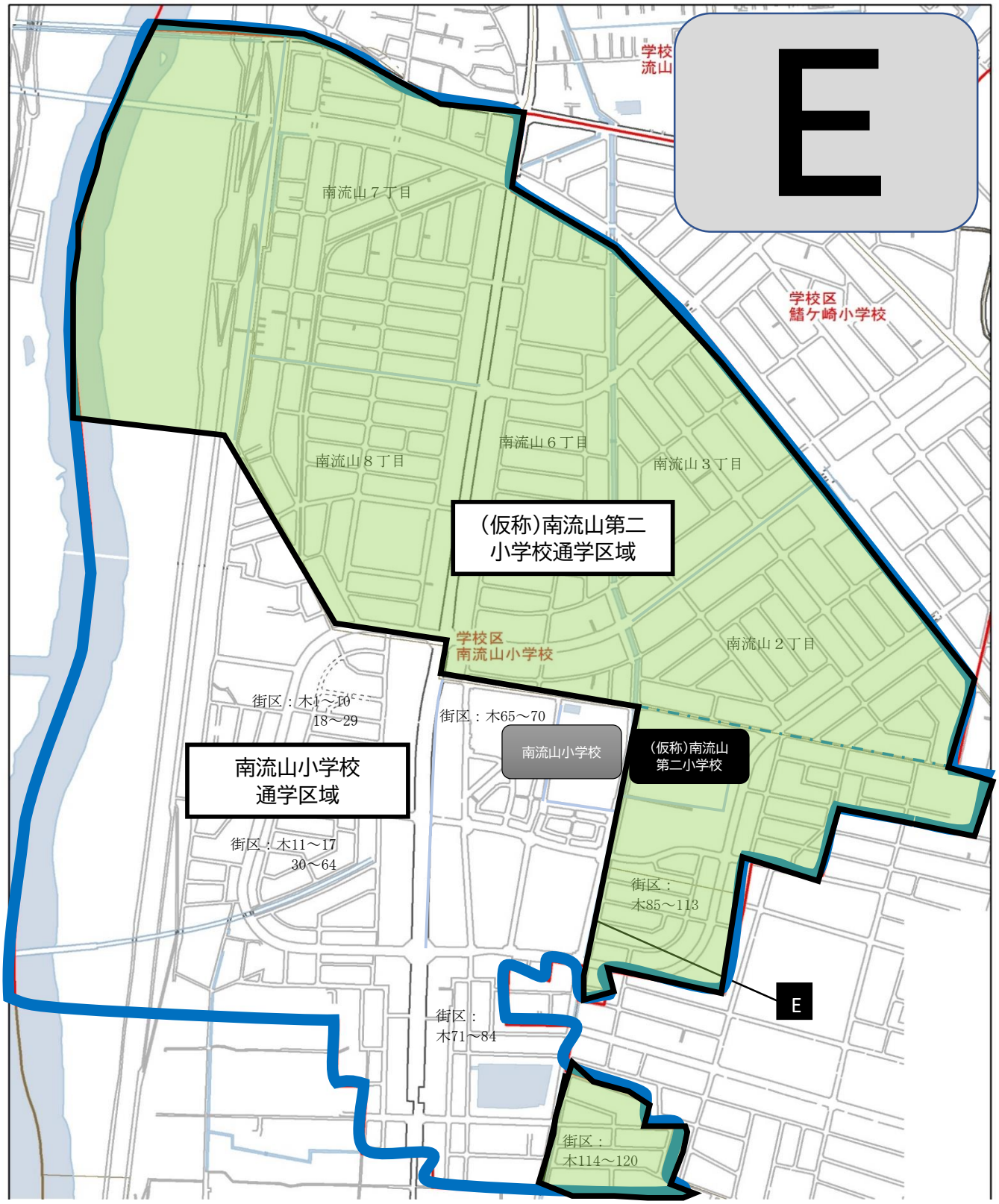
令和9年度	D	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	1,000	32
南流山小	1,297	40
合計	2,297	72

＜メリット＞
・令和９年度時点において、児童数のバランスが良い。

＜デメリット＞
・南流山地区と木地区がそれぞれの学区に混在している。
・今後、（仮称）南流山第二小学校が概ね４８学級を超える可能性がある。

（仮称）南流山第二小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	E	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	853	28
南流山小	961	30
合計	1,814	58

令和9年度	E	
	児童数	学級数
（仮称）南流山第二小	1,017	32
南流山小	1,280	39
合計	2,297	71

＜メリット＞
・木地区には未整備地が残っており、今後児童が増加した場合でも、南流山小学校で受け入れが可能である。
・令和６年度及び令和９年度において、児童数のバランスが良い。
・（仮称）南流山第二小学校は、改築等で教室を増やすことが可能である。

＜デメリット＞
・南流山地区と木地区がそれぞれの学区に混在している。